

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	平成 20 年 4 月 24 日
調査実施の時間	開始 10 時 00 分 ~ 終了 16 時 00 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームるーぴんのさとく大崎 ( 鹿児島 )
-------------------	------------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>水流 涼子</u> 氏名 <u>中村 朋美</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>福留 利郎</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p><b>※記入方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。</li> <li>●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。</li> </ul> <p><b>※項目番号について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部評価項目は30項目です。</li> <li>○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。</li> <li>○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。</li> </ul> <p><b>※用語について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)</li> <li>●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。</li> <li>●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。</li> <li>●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</li> </ul>
---

作成日 平成20年5月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677000111号		
法人名	社会福祉法人 福 寿 会		
事業所名	グループホームるーびんのさと<大崎>		
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町永吉松ヶ迫6031番地 (電 話) 0994-71-7390		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星が峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年4月16日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	平屋 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	220 円	昼食 280 円
	夕食	280 円	おやつ 昼食含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 ( 10月 1 日 現 在 )

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 90 歳	最低 87 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂元内科クリニック ・ 上床歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームるーびんのさと<大崎>は緑豊かな田園地帯の中に立てられ、どの居室も日当たりと風通しがよく、自由にベランダに出られるように作られている。建物の周囲には、菜園・花壇のほか、ゲートボール等ができる敷地があり、夏祭りの折には地域の方々との交流がおこなわれるなど、地域に開かれたホームとなっている。職員は、施設長の思いを受け止めながら、毎年理念の見直しを全職員でしており、利用者同士がゆったり暮らし、家庭的であたたかい介護、地域に根ざしたホーム作りなどに努めている。利用者は、明るい雰囲気の中で穏やかに過ごしている。また、このホームでは、家族の協力のもと、毎年一泊旅行を実施しており、家族同士のふれあいの機会にもなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流、介護計画の見直しについては、改善への取り組みがみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解し、管理者・職員が気付きを出し合って、一緒に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催されている。委員として固定したメンバーは決めていないが、地域住民代表、民生委員、家族、行政などの出席を得て、ホームの運営報告がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	季節の行事や一泊旅行などを通して家族との交流が積極的に行われており、日ごろから家族の意見を受けとめるための機会づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設して5年目を迎えることから地域に根付いた存在となっており、ホームでの行事に高齢者や子供たちが参加して交流が図られている。

## 2. 評価結果 (詳細)

主任調査員 水流涼子 / 調査員 中村 朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を深めながら、家庭的な暮らしが続けられるようなサービスを目標とした理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員とで毎年新しい理念を考えて、内容を共有しながら理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の行事に地域のお年寄りや子供たちを招待するなど交流が図られている。		ホームの入居者や職員が地域の行事に出向いて参加するなどの、交流も期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には運営者ほか全職員で取り組んでいる。外部評価についても評価の意義の理解に努め、改善や新しい対策について話し合いながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われており、無断外出訓練などについても、協力的な協議がなされている。		

グループホームるーぴんのさと<大崎>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを届けるなどして関係作りに努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りにお知らせや日ごろの生活ぶりについて個々のメッセージ欄をもうけて、毎月家族に知らせている。また、来訪時や電話などでも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との交流の機会を作って意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。特に一泊旅行に際しては家族が積極的に参加しており、その時の家族の意見等を部署会議で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、できるだけ馴染みの関係を損ねないように運営者と協議がされている。異動のあった職員は、面会時や便りで家族にも紹介し、報告している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、年間計画を立てて合同研修を実施している。外部研修は、希望者が交代で受けるようにしており、段階・職種に応じた職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会に加入し、研修会等に参加して交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	はじめに本人や家族にホームを見学してもらっている。担当の職員を決めて、徐々に馴染みの関係を作ってから、安心して利用できるような対応をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事や料理、保存食など昔の知恵を活かしながら、支え合う関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の思いの把握に努めている。意思表示のできない人については家族から聞いたりしながら本人本位に取り組んでいる。県外在住の家族に会いたいという意向を実現する取り組みもしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に際しては、家族も同席して希望や意見を貰って、本人の思いに沿った介護計画をたてている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しのほか、現状に即した見直しも行っている。		

グループホームるーぴんのさと<大崎>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参り、一時帰省や通院同行など、個々の希望に応じた対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の納得したかかりつけ医から、ほとんど毎週訪問診療をしてもらっている。夜間や祝日等の緊急時にも受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に際しての対応については、食事の経口摂取が可能までは、ホームでの支援をするという基本的な考え方となっている。この考えのもとで、家族、医師、職員と協議し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報確保については、入職時に確認している。法人内で研修を実施して、プライバシーの保護及び尊厳を重要視した言葉使いなどに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にした支援をしている。美容院やお墓参りなど個々の希望も受け止めてその人らしい生活を支援している。		

グループホームるーぴんのさと<大崎>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付けを一緒にしたり、同じものを同じテーブルで食べて、共に喜び楽しみながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ひとりずつ、ゆっくりといつでも好きな時間に利用できることを基本としており、入居者の楽しみの一つでもある。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ、ラッキョウや梅干漬けなどのほか、毎日の食事の支度・後片付けなどの役割や、楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内やホーム周辺の散歩、車での買い物など希望にあわせた外出の機会を作っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全に配慮しながら鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の社宅が近くにあり、地域住民の参加は貰っていないが、定期的に避難訓練を実施している。緊急時の対応のために、持ち出し品リストを作成している。非常食の準備もできている。		地域の人々の協力を得られるように働きかけることが期待される。

グループホームるーぴんのさと<大崎>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック報告書を作成し、水分や食事摂取の記録などにより個々の状態や習慣を把握しながら支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いろり付きのテーブルやソファが置かれ、自由にくつろげるように配慮されている。ホームの内外には季節の花が見られる。台所やトイレなども使いやすく工夫されており、入居者は、明るく穏やかに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には家具やテレビなどが使い易く配置され、居心地よく暮らせるよう配慮がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。